

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成 年 月 日

協議会名： 弥富市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 平成28年度地域公共交通確保維持改善計画（地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィードバックシステム関係）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運 行（航）区間、整備内容等を記 載（陸上交通に係る確保維持 事業等及び公有民営方式車両購 入費に係る国庫補助金の交付 を受けている場合、離島航路 に係る確保維持事業において 離島航路構造改革補助（調査 検討の経費を除く。）を受けて いる場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間に おいて、前回の事業評価結果 をどのように生活交通確保維 持改善計画に反映させた上で 事業を実施したかを記載】	A ・ B ・ C ・ 評価	A ・ B ・ C ・ 評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標 を記載。改善策は、事業者の取り組みだけ でなく、地域の取り組みについて広く記載。 特に、評価結果を生活交通確保維持改善 計画にどのように反映させるか（方向性又 は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合 はその旨記載
三重交通（株）	弥富市内を巡回する3路線（北 部ルート、東部ルート、南部 ルート）を運行し、各ルートとも 近鉄弥富駅やイオンタウン、総 合福祉センター等の主要な施 設にアクセス。また、東部ルー トは飛島公共交通バス蟹江線 と一部バス停を共有。	弥富市地域公共交通確保維持改善計画 を策定（認定済） →平成28年3月策定 →海南病院改築・蟹江警察署移転等 に伴うルート・ダイヤ見直し検討 →海南病院への乗り入れ、蟹江警 察署へのバス停新設、飛島公共 交通バス蟹江線との乗り継ぎ改善 等 無料お試し乗重券を配布し、新規 利用者の掘り起しを実施 →無料お試し乗重券の利用による 新規利用者84名 情報提供等周知活動の実施 →弥富市HPへの飛島公共交通バ ス（蟹江線）の情報掲載 →飛島村及び木曾岬町HPへのき んちゃんバスの情報掲載 →利用者アンケート案内文にシル バーバスやサイクル&バスライド駐 輪場情報等の掲載 等	A 計画通り、モニタリング調査 （利用者アンケート）や利用 実態調査（利用者数（毎 日）、OD（1週間））等を実施 し、できる限り利用実態や ニーズの把握に努めた。ま た、協議会を計4回開催す るとともに、無料お試し乗車 券の配布による新規利用 者の発掘、広報紙やHP、イベ ントの場等を活用した情報 提供に努めており、適切に 実施している。	A 【満足度の向上】 ・モニタリング調査（利用者アン ケート）による満足度の前年度 からの向上を目標とし、満足度 が上昇 ⇒49.1%→51.2%（「非常に満 足」「やや満足」の割合） B 【1便当たり乗車人員数の増 加】 ・1便当たり乗車人員数の前年 度からの増加を目標とし、北 部・東部ルートでは増加した が、南部ルートで減少 A ⇒北部ルート：7.3人/便→7.9人/便 B ⇒南部ルート：8.7人/便→8.5人/便 A ⇒東部ルート：7.6人/便→8.1人/便	平成28年12月1日にダイヤ改正を実施 →海南病院改築工事を完了（平成28年11月末）に伴う 全ルート海南病院への乗り入れ実施（ルート変更） →蟹江警察署移転（平成29年3月頃予定）に伴うバ ス停の新設（ルート変更） →要望や観光の観点から一部ルートの停車バス停を 増加 →飛島公共交通バス蟹江線との乗り継ぎ改善（ダイヤ 調整） 等 ニーズに即した運行改善の検討 →最も利用者の少ない東部ルートが運行する十四山 地区住民を対象に運行改善に関するアンケートを実 施し、改善を検討 →東部ルートと蟹江線との乗り継ぎ利用が少ない状 況にあるため、上記アンケートにおいて近鉄蟹江駅へ のアクセス需要を把握 →利用が伸び悩む南部ルートについても、住民意向 を把握し、改善を検討 等 継続的な利用促進活動の推進 →一部利用促進策の認知度が低いため、市HPや広 報等多様な媒体を活用した継続的な周知など利用促 進活動を推進することが必要

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名:	弥富市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	平成28年度地域公共交通確保維持改善計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内ファイダーシステム関係)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持 (利用者実態調査等の結果より、利用者総数は少ないものの「利用者の約9割が65歳以上の高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的の利用が多い」という特徴を把握することができ、高齢者等交通弱者の交通手段確保の必要性が明らかにされた。また、「弥富市地域公共交通網形成計画」に基づき、今後も市内バス運行の改善・充実のため、利用者実態調査やモニタリング調査を実施し、ニーズに即したダイヤの見直し、隣接する自治体との連携等の検討を行い、あわせて地域公共交通確保維持事業により、市民生活と地域を支える持続可能な地域内ファイダーシステムとしてのコミュニティバスを確保・維持していくことが必要である。)

平成21年7月10日設置

フィーダー系統

平成27年6月12日確保維持計画策定

弥富市地域公共交通協議会

1. 協議会が目指す地域公共交通の姿

地域の特性と背景

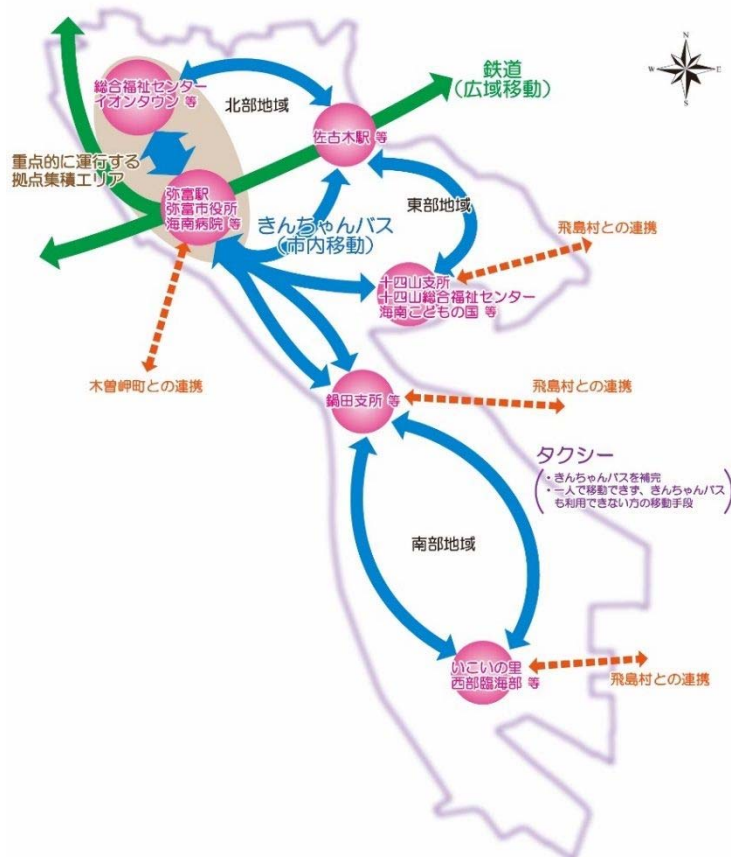
- JR関西本線（JR 弥富駅）、近鉄名古屋本線（近鉄弥富駅、佐古木駅）が東西に横断し、名鉄尾西線（名鉄弥富駅、五之三駅）が北進しているが、大部分の公共交通サービスはバスが担う。
- 平成22年3月に「弥富市地域公共交通総合連携計画」を策定し、平成22年6月21日より無料巡回福祉バス廃止、コミュニティバスの運行を開始（現在は日・祝運休）
- 平成28年3月に「弥富市地域公共交通網形成計画」を策定。
- バス利用者の約6割が75歳以上であり、65歳以上を含めると約8割が高齢者で、買い物や通院、公共施設の利用目的の利用が多い。（75歳以上には無料パスカードを全員に配布）

総合計画・都市マスにおける公共交通（バス）の位置づけ

- 市民の日々の暮らしにおける移動手段としての利便性向上はもとより、地球温暖化の抑制に向けたCO2の削減、高齢者等の外出機会の支援なども見据え、地域公共交通サービスの充実を図るものとし、効率的かつ適正な運行体制を検討し、利用者サービスの向上や運行ルートの実現に努める。

弥富市地域公共交通網形成計画

- 計画期間：平成28年度～平成32年度
- 基本方針：市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持
- 目標年における拠点を結ぶ地域公共交通の展開イメージ



■ 鉄道（広域移動）

広域的な移動手段として、きんちゃんバスへの乗継ダイヤを駅に掲示し、乗継環境の改善を図るなど連携を強化し、利便性の向上を図る

■ きんちゃんバス（市内移動）

市内の主要な拠点を結ぶ使いやすい移動手段として、地域特性や利用状況、まちづくり等の関連計画を踏まえつつ効率的、効果的に運行する。また、きんちゃんバス相互や周辺自治体が運行するバス、鉄道との乗継環境の改善を図るなど連携を強化し、利便性の向上を図る

■ タクシー（きんちゃんバスの補完）

きんちゃんバスを補完し、時間を選ばずドア・ツー・ドアの移動が可能な自由度の高い移動手段としてだけでなく、心身障がい者（児）や要介護認定者、要支援認定者など1人で移動できず、きんちゃんバスも利用できない方の移動手段として、料金助成事業等と連携し、利便性の向上を図る

2. 計画の達成状況の評価に関する事項

目標 1：1 便当たり平均乗車人員の維持・増加

- 将来的な人口の減少が予測されている中、使いやすく効率的で、持続可能な地域公共交通へと発展し続けるためには利用者の確保が必要である。そこで、現在の 1 便あたり平均乗車人員の状況を最低限維持するとともに、継続的な改善と利用促進策の展開により、できる限り増加を目指す。
- 今後、増便や減便など運行改善を実施した場合には、1 日当たり平均乗車人員の状況も踏まえ、総合的に評価するとともに、必要に応じて目標値の見直しを検討する。

目標 2：1 便当たり平均乗車人員の維持・増加

- 現在の利用の中心となっているのは高齢者であるが、買い物や通院、通勤・通学に利用されるなど、多様な方が利用しルートによっても利用特性が異なる。誰もが使いやすい地域公共交通であるためには、これら利用特性や地域特性に応じた的確で継続的な改善が必要となる。そこで、継続的な改善を総合的に評価する指標として利用者の満足度を把握し、その向上を図る。

指 標		現況 (平成 27 年度※1)	目標 (平成 32 年度※1)
1 便当たり 平均乗車人員※2	全ルート	8.1 人/便	9.8 人/便
	北部ルート	7.4 人/便	11.8 人/便
	南部ルート	8.7 人/便	8.7 人/便※4
	東部ルート	7.6 人/便	9.5 人/便
利用者満足度※3		49.1%	50.0%

※1：年度は 4 月～翌年 3 月を 1 年度とする

※2：利用者実態調査により毎年評価

※3：モニタリング調査（利用者アンケート）により毎年評価

※4：減少傾向のため現状維持を目標としている

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

弥富市地域公共交通活性化協議会の開催（実施主体：市、市民、交通事業者）

平成 28 年度事業

- 平成 27 年度 第 2 回（H27.10.21）・地域公共交通の分析結果 ・弥富市地域公共交通網形成計画（素案） 等
- 平成 27 年度 第 3 回（H27.12.22）・平成 27 年度確保維持改善計画事後（自己）評価 ・弥富市地域公共交通網形成計画（素案） 等
～パブリックコメント～
- 平成 27 年度 第 4 回（H28.3.18）・弥富市地域公共交通網形成計画（案） ・平成 28 年度協議会事業計画及び予算 等
～弥富市地域公共交通網形成計画策定（H28.3）～
- 平成 28 年度 第 1 回（H28.6.29）・決算 ・平成 29 年度確保維持改善計画案 ・運行ルート・ダイヤ改正案
・利用者実態調査・モニタリング調査・無料お試し乗車券の内容 等

平成 29 年度事業

- 平成 28 年度 第 2 回（H28.10.26）・運行ルート・ダイヤ改正案 ・各種調査結果（利用実態調査・モニタリング調査・お試し乗車券）
・十四山地区住民アンケート案 等
- 平成 28 年度 第 3 回（H28.12.20）予定・平成 28 年度確保維持改善計画事後（自己）評価 等

各種調査結果の概要（実施主体：市、交通事業者）

利用実態調査結果

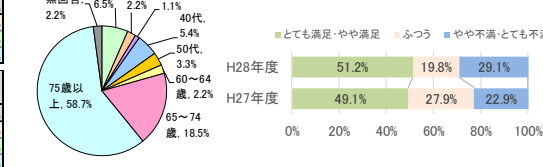
- ・北部・東部ルート増加、南部ルート減少

乗車人員 (人)	H27年度 H26.10～H27.9	H28年度 H27.10～H28.9	H27からH28への 増減
全体	69,704	72,628	+2,924 +4.2%
北部ルート	23,416	25,602	+2,186 +9.3%
南部ルート	35,661	35,493	-168 -0.5%
東部ルート	10,627	11,533	+906 +8.5%

1便あたり 平均乗車人員 (人/便)	H27年度 H26.10～H27.9	H28年度 H27.10～H28.9	H27からH28への 増減
全体	8.0	8.2	+0.3 +3.2%
北部ルート	7.3	7.9	+0.6 +8.2%
南部ルート	8.7	8.5	-0.1 -1.4%
東部ルート	7.6	8.1	+0.6 +7.5%

モニタリング調査結果（利用者アンケート）

- ・65 歳以上約 8 割
- ・75 歳以上約 6 割（無料利用）
- ・満足度 49.1%→51.2%に増加
- ・不満も 22.9%→29.1%に増加
- ・運行本数への不満が多い



無料お試し乗車券配布結果

- ・利用可能期間：8/1(金)～8/30(土)
- ・利用枚数：995 枚
- ・新規利用者：84 名（うち約 3 割小中学生）



- ・「近鉄弥富駅南口」「弥富市役所」「イオンタウン」・利用目的は「買い物」「通院」や「公共施設への用事・利用」が多い
- ・「総合福祉センター」「海南病院」の乗降者が多い
- ・東部ルートと飛島公共交通バス蟹江線との乗り継ぎ利用は約 3%
- ・きんちゃんバス相互の乗り継ぎは見られる
- ・サイクル&バスライド駐輪場を知っている人は約 3 割と少ない
- が、他自治体運行バスとの乗り継ぎが少ない

弥富市地域公共交通網形成計画の策定（実施主体：市、市民、交通事業者）

- 弥富市地域公共交通総合連携計画（平成 21 年 3 月）に基づく取り組みを推進した結果、一定の成果を上げているものと考えられるため、次のステップに向けた新たな目標と計画を策定（平成 28 年 3 月）

海南病院改築及び蟹江警察署移転に伴うルート・ダイヤの見直し検討（実施主体：市、交通事業者）

- 設計段階からバスの乗り入れ、停車場等について海南病院やバス事業者との調整を実施し、海南病院への乗り入れ（乗降場所整備）を実現
- 運行ルートの見直しについて協議会を通し検討し、観光等との連携の観点から、北部ルート及び東部ルートについて変更後のルート上にある「歴史民俗資料館」にも停車
- 蟹江警察署移転に伴う運行ルートを変更し、警察職員の通勤時のバス利用については、勤務実態等を踏まえ警察とも調整したが利用は見込めないと判断から、免許更新受付時間等一般警察利用を考慮したダイヤ調整を実施
- ダイヤ調整時には、東部ルートと飛島公共交通バス蟹江線との乗り継ぎ利便性を考慮
- 平成 28 年 12 月 1 日にダイヤ改正を実施し、変更のポイントや近鉄及び飛島公共交通バス蟹江線乗り継ぎダイヤ等の情報を掲載した新時刻表を全戸配布、主要施設へ配架

無料お試し乗車券の配布（実施主体：市、交通事業者）

- 新たな利用者を掘り起こすことを主な目的に、きんちゃんバスに乗ったことのない人が一度の利用経験を通じて持続的に利用するきっかけとなることを期待し全戸に配布するとともに、将来的な利用を期待し別途市内小学生全員にも配布
- 親子で利用しやすいように夏休み時期を利用期間に設定

情報提供等周知活動の実施（実施主体：市、飛島村、木曽岬町）

- 弥富市 HP への飛島公共交通バス（蟹江線）の情報掲載、飛島村及び木曽岬町 HP へのきんちゃんバスの情報掲載、利用者アンケート案内文にシルバーバスやサイクル&バスライド駐輪場情報の掲載、広報誌やイベントの場等を活用した情報提供等の周知活動を実施

4. 具体的取組みに対する評価

事業実施の適切性の評価

○計画通り、モニタリング調査（利用者アンケート）や利用実態調査（利用者数（毎日）、OD（1週間））等を実施し、できる限り利用実態やニーズの把握に努めた。また、協議会を計4回開催するとともに、無料お試し乗車券の配布による新規利用の発掘、広報誌やHP、イベントの場等を活用した情報提供に努めており、**適切に実施**している。

目標・効果達成状況の評価

○生活交通確保維持改善計画における目標

- ・満足度の向上
→満足度は上昇しており、**目標は達成**している
- ・1便当たり乗車人員数の増加
北部・東部ルートでは増加したが、南部ルートでは減少しており**一部目標を未達成**

指 標		平成 27 年度 ^{※1}	平成 28 年度 ^{※1}
1 便当たり 平均乗車人員	全ルート	8.0 人/便	8.2 人/便
	北部ルート	7.3 人/便	7.9 人/便
	南部ルート	8.7 人/便	8.5 人/便
	東部ルート	7.6 人/便	8.1 人/便
利用者満足度		49.1%	51.2%

※1：確保維持改善計画における年度は10月～翌年9月を1年度

○地域公共交通網形成計画における目標

- ・利用者満足度の向上
目標年における**目標を達成**している
- ・1便当たり乗車人員数の維持・増加
南部ルートは現状を維持し、その他のルートでもこの増加傾向を維持できれば、概ね平成32年の**目標を達成できると予測**

指 標		現況 (平成 28 年度 ^{※1})	目標 (平成 32 年度 ^{※2})
1 便当たり 平均乗車人員	全ルート	8.5 人/便	9.8 人/便
	北部ルート	8.2 人/便	11.8 人/便
	南部ルート	8.9 人/便	8.7 人/便 ^{※2}
	東部ルート	8.3 人/便	9.5 人/便
利用者満足度		51.2%	50.0%

※1：網形成計画における年度は4月～翌年3月を1年度

※2：減少傾向のため現状維持を目標としている

地域全体の公共交通網を踏まえた評価

- 幹線系統である飛島公共交通バス蟹江線は、弥富市から近鉄蟹江駅へのアクセス需要に対応する重要な路線である
- きんちゃんバス全体の利用者数は前年度比104.2%となっており、そのうち蟹江線と一部バス停を共有する東部ルートの利用者数は前年度比108.5%と増加している
- きんちゃんバス相互の乗り継ぎは見られるが、蟹江線との乗り継ぎ利用をしたことがある人は少ない
- 海南病院改築及び蟹江警察署移転等に伴うルート・ダイヤを検討し、合せて要望や観光の観点から踏まえた停車バス停の増加、きんちゃんバスと蟹江線との乗り継ぎダイヤを調整するなど利便性を向上
- 飛島村も参画している弥富市地域公共交通活性化協議会（年4回開催）において議論・情報共有を図った

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

幹線系統との乗り継ぎ利便性の改善

- きんちゃんバスの利用者数は増加傾向となっているものの、蟹江線との乗り継ぎ利用は少ない状況にあるため、近鉄蟹江駅へのアクセス需要の把握や乗り継ぎダイヤの調整、周知活動など、継続的に取り組みを推進することが必要
→平成28年12月1日のダイヤ改正時に乗り継ぎダイヤ調整を実施
→蟹江線が運行する十四山地区住民を対象としたアンケートを実施し、蟹江駅へのアクセス需要を把握
→ダイヤ改正に伴い発行する新時刻表にも蟹江線との乗り継ぎダイヤを掲載
→蟹江線が運行している飛島村役場への南部ルートの乗り入れ検討や、きんちゃんバスと蟹江線との乗継券発行の検討を実施予定

ニーズに即した運行改善の検討

- きんちゃんバスの利用者数は増加傾向となっているものの、東部ルートは他のルートに比べて運行本数、利用者数ともに最も少なく、南部ルートにおいては利用者が伸び悩んでいるため、ニーズに即した運行の改善が必要
→平成28年12月1日のダイヤ改正時に、要望を踏まえ停車バス停を増加
→最も利用者の少ない東部ルートが運行する十四山地区住民を対象に運行改善に関するアンケートを実施し、改善を検討
→利用が伸び悩む南部ルートについても、住民意向を把握し、改善を検討

継続的な利用促進活動の推進

- 一部利用促進策の認知度が低いと、市HPや広報等多様な媒体を活用した継続的な周知など利用促進活動を推進することが必要
→ダイヤ改正に伴い発行する新時刻表に、回数券や定期券、シルバーパスなどの料金負担軽減策のほか、サイクル&バスライド駐輪場に関する情報、鉄道（近鉄）や蟹江線との乗り継ぎダイヤ等の情報を掲載
→アンケート調査や広報、HP、健康フェスタ等のイベントなどの住民との接点を活用し、きんちゃんバスの情報やかしいクルマの使い方の情報を提供
→無料お試し乗車券の配布による継続的な新規需要の掘り起し

弥富市地域公共交通協議会

平成21年7月10日設置

1. 直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 （具体的対応内容）	今後の対応方針
・平成25年10月のダイヤ改正後にアンケート調査を兼ねた「バス停乗降者数調査」及び「無料お試し乗車券の配布」などに取り組み、減便に伴う影響や乗り継ぎ状況の把握、新規利用者の開拓に努められていることについて、評価します。 ・現在、各課題に対応すべく「地域公共交通網形成計画」を策定しているとのことですので、計画の中の評価の仕組みを検討するとともに、計画策定後は、地域の観光資源の発掘や、更なる交通サービスの充実及び利用促進が図られることを期待します。	・平成28年3月に策定した「弥富市地域公共交通網形成計画」において、各事業に関連し実施する調査等として利用実態調査やバス停乗降者数調査（OD）、モニタリング調査等の各種調査を、実施時期もあわせて位置づけ、調査を実施している。 ・無料お試し乗車券の配布についても事業として位置づけ、今年度も実施している。 ・平成28年3月「弥富市地域公共交通網形成計画」策定 ・「弥富市地域公共交通網形成計画」では、各事業について「関連し実施する調査等」を明記し、実施時期も位置づけるとともに、全体の評価スケジュールも位置づけている。 ・平成28年12月1日のダイヤ改正においては、バス利用の多い海南病院への乗り入れ等を実現するとともに、本市の観光資源の1つである「歴史民俗資料館」への全ルート停車も実施している。	・弥富市地域公共交通網形成計画に即し、事業や調査を今後も継続的に実施する。 ・利用者や運行便数が少なく、幹線系統である飛島公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有する東部ルートについて、十四山地区住民を対象とした運行改善に関するアンケート調査を実施し、改善を検討する。 ・利用者が伸び悩んでいる南部ルートにおいても、今後住民意向を把握し、改善を検討する。

2. アピールポイント

海南病院へ乗り入れによる利便性の向上の検討

- 設計段階からバスの乗り入れ、駐車場等について海南病院やバス事業者との調整を実施し、バス利用も多い海南病院への乗り入れ（乗降場所整備）を実現

- 診察や面会の時間を踏まえたダイヤ調整を実施

【変更前】



【変更後】



将来的な利用を期待した需要の掘り出し

- 市内全戸のほか、将来的な利用を期待し市内小学生全員に無料お試し乗車券を配布
- 親子で利用しやすいように夏休み時期を利用期間に設定

